

令和2年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
1	川崎市立 川崎高等学校全日制	高井 健次

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<p>「ここぞかな人になろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の良さを伸ばし、将来の夢を見つめて、自分探しに取り組もう 自ら知識を求め、追究する過程を大切に、新たな課題に取り組もう 思いやり、思いやる心をつちかい、人類共通の課題に取り組もう 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導・生活指導・進路指導の一体化による高い志の実現を促す 6年間の特色ある教育活動の推進 安全・快適な教育環境の整備 正しい姿勢の学校事務の遂行 教職員の資質・能力向上と学校組織の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 「自ら高い志を追い及、その実現のためにひたむきな努力を継続できる生徒を育成し、基礎・基本の定着」とともに確かな学力、豊かな心、健やかな体を育成する。 それぞれの学科の特徴を生かしながら、生徒一人ひとりの良さを伸ばし、可能性を引き出すとともに自己存在感を育める教育活動を展開する。

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1	<p>学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導の確立と基礎・基本の徹底、生徒の学習ニーズに応じた発展的な学習のサポート等、主体的な学びを促す学習指導を展開する。 生徒の良さを伸ばし、潜在的な能力・可能性を積極的に引き出すための授業改善に取り組む。 学び方や学習方法の指導と学習ガイダンスを徹底し、家庭での学習習慣、自学自習や生徒相互の学び合いを進めて、生徒の進路目標到達、自己実現を支援する。 基礎・基本の徹底、専門的知識・技能の習得や各種資格取得の指導とともに、将来に地域社会のコミュニティを担う人間となるべく主体的・対話的な深い学びを実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休業措置下においても、生徒の学びの継続を図るための特別組織を編成し、学年、校務分掌等の校内組織を機能的に活用し、学校教育力の向上に努めた。 進路指導部及び校内委員会「学力向上プロジェクト委員会」が連携し、3年間の進路学習の計画を作成し、生徒の進路希望の実現を支えた。 生活科学科・福祉科では、基礎・基本の学力の養成と、学科の特色を生かした資格や検定の取得を奨励することで、知識・技能をより高めることができた。 臨時休業下においても、いち早くICT機器及び学習支援ソフトを活用し、オンラインによる基礎・基本の定着や発展的な学習の確保を確めた。 授業力向上に関するワーキンググループを新たに組織し、個々の教職員の取組を校内で共有するなど、学校全体の授業力の向上を目指した。 火曜日の8校時に「学習会」を設置し、生徒の主体的な学習を促した。 模擬試験実施ごとに結果分析を行い、生徒・保護者に丁寧に説明するなど、学習指導と進路指導の連携体制を推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫教育の学習成果が発揮できよう授業内容をさらに充実させるとともに、模擬試験の振り返りを行いしかりと行うなど、生徒の進路実現に向けた取組を推進する。 生徒・保護者を対象の説明会の内容や模試の結果分析の提示方法などガイダンス機能の充実をさらに図る。 模試後の結果分析など教員を対象とした研修を実施し、個々の生徒の進路実現を目指す。 専門学科においても、人材の自立に向けて、専門家による体験授業、施設実習の充実など、地域人材の活用、資格取得に向けた実践的な授業の充実・努める。 引き続き、教職員の個々の授業の取組を学校全体で共有できるように努め、学校全体の授業力の向上を図る。 オンライン会議ソフト「Zoom」、学習支援ソフト「Classi」及び新たに導入した「駿台サテネット21」の活用を工夫し、ICTを活用した学習のさらなる充実を目指す。
2	<p>生活指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別活動の活性化、望ましい集団活動を通して、学校生活の充実・向上を図る指導を展開する。 人権尊重の精神を培うとともに、人間的な心の触れ合いや感動体験活動等を通じて、学ぶ者同士の連帯意識や所属意識を醸成する。 魅力ある体育・文化活動を通して、心身の調和のとれた学びと豊かな感性を育む。また、部活動を通して生徒の個性・特性を伸ばすとともに、切磋琢磨しあう人間関係を築くことで社会性・協調性を育む。 基本的な生活習慣、心身の健康の保持による生活規律を確立する。 日常的な指導や学校行事・ロングホームルーム・部活動等を通じ、生徒の基本的な生活習慣・学習習慣を確立できるようにするとともに、幅広い社会性や交友の精神と豊かな人間性を養う。 心身の健康管理や食育等を通して、学力の基礎となる健全な生活習慣の確立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の体育祭及び文化祭は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、プログラムを精選し開催時間を限定するなど、規模の縮小を図った。体育祭については、中高の発表時間を分けての開催となったが、事前準備等については例年通りの中高合同のブロック編成で行うなど、附属中学校との連帯感を高めることを目指した。 部活動についても、感染症拡大防止の観点から例年通りの活動ができなかったが、個性の尊重、社会性の育成などが期待できる活動であるため、次年度以降も家庭学習時間の確保、社会教育、家庭教育の機会や教員の余暇の確保などとの兼ね合いを図りながら、市の方針に沿った内容で実施していく。 臨時休業期間及びその後の学校生活の中で、手洗い、消毒の励行、教室配座、行事の感染予防、オンラインによる教育相談など、学校全体をあげ、生徒の健康管理に努めた。 さまざまなニーズを持った生徒、生徒の心身のケアに対応するため、「支援検討委員会」を核とした、実効性のある支援に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 市の方針に則しながら、授業時間を確保するとともに、社会状況に応じて生徒が主体的・効率的に取り組む活動を活性化す。 ICTによる活動をさらに推進し、オンラインによる地域との連携を推進するなど、生徒の学校内外での活動の機会を増やす。 教育相談の機会や学校ホームページを利用し、家庭における生徒の健康管理や基本的な生活習慣の確立を図る。 日頃から感染症拡大不安など、生徒の心身の変化に留意するとともに「生徒情報交換会」や「支援委員会」などの校内組織を効果的に運用し、生徒、学級の状況を客観的に取り、青年期の不安や特性に応じた関わり、適切な支援をすることによって、充実した学校生活の基盤を作る。
3	<p>進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画的・組織的な進路指導を推進し、生徒一人ひとりの実態とニーズに応じた指導を展開する。 学科の特色や生徒の実態に応じた進路ガイダンス、進路講演会、模擬試験・職業体験等の進路啓発行事を最速で計画・実施し、進路選択に向けた一層の指導の充実を図る。 進路指導部、学年の連携を密にし、「進路の手引き」の充実、活用を図るとともに、生徒が主体的に進路選択できるように総合探究(総合的な探究の時間)の組織的・計画的な指導と外部機関との連携による探究的な活動の推進ならびに学習発表会に向けた全体的な取組みを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症防止による臨時休業措置により、進路ガイダンス・進路講演会・職業体験など、外部講師や保護者などの進路啓発行事は中止や見直しなど、計画通りの実施はできなかった。 進路啓発行事の在り方を見直し、遠隔会議ソフトなどを積極的に活用するなど、新型コロナ禍における進路指導体制の見直しを図った。 大学共通テストが初めに実施されることもあり、模擬試験の結果分析を丁寧にを行い、客観的に生徒・保護者の信頼が得られる進路指導を目指した。 教育プランに基づき、将来の社会的自立に必要な力を育成するため、社会人学校を生かした講演会や実習を積極的に行い、進路指導を推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌、校内委員会の連携をより一層はかり、生徒の進路希望の実現を目指す。 生徒の主体的な進路選択を目指し、効率的・効果的な進路ガイダンス・進路講演会・キャンパス訪問・職業体験等の進路啓発行事の実施を目指す。 保護者、生徒への進路情報の配信、模試等のデータの蓄積と活用等、ICTをはじめ本校の持つ教育環境を生かし効果的・効率的な進路指導の在り方を検討する。 教育プランに基づき、生徒の将来の社会的自立に向けたキャリア教育の推進に努める。
4	<p>6年間の特色ある教育活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市教育委員会研究推進校研究課題「6年間の体系的・探究的な活動を通して、思考力・判断力・表現力を身に付けさせるための研究」を推進する。 総合探究(総合的な探究の時間)の組織的・計画的な指導と外部機関との連携による探究的な活動の推進ならびに学習発表会に向けた全体的な取組みを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 市立高等学校改革推進計画第2次計画の「中高一貫教育の充実」を目指し、中学、高校の職員による6年間の体系的な教科指導の在り方や校務運営について、検討や研修の機会を設ける必要がある。 コロナ禍においても、スタフォード大学の連携を実施し、生徒の多文化への理解や、グローバルな見方などを育成した。 横浜国立大学との連携については新型コロナウイルスの影響から予定通りの連携はできなかったが、都市科学部と連携し、オンライン講演会を実施した。 市役所の業務改善イベント「チャレンジかわさきカゼン発表会」にオンライン参加し、市長へ及び市役所の職員に向けて、代表生徒の発表を行った。 総合的な探究の時間の発表会を予選発表、本発表と2部構成にし、生徒の学習への意欲を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学からの6年間の充実した学習を推進するためにも、中高の教科指導や校務運営などの考え方について、検討を進める必要がある。 様々な機会に、地域や外部の専門機関、大学・企業と連携し、多くの体験をさせることで、将来の社会的自立を目指す。 「探究学習」については、スタフォード大学や横浜国立大学との連携を深め、生徒の国際理解や主体的な学習の機会とするとともに、市内への情報発信に努める。
5	<p>教育環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の特色・魅力を具現化する教育課程を編成・実施する。 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、教育内容や指導方法等の充実・改善等の取組を進める。 各教室や体育施設の円滑な運用に向けて、組織的・計画的な取組を進める。 附属中学校・全日制の学校行事、生徒会行事等の実効的な取組を工夫・検討し、活動内容の充実を図る。 清潔活動や校内美化活動により、自ら学習環境を整える態度、社会性や公共心を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設管理室との連携を常時図り、校舎内の施設の維持・美化に努め、不備等においては迅速な処理を行った。 日常の授業、行事、部活動などにおける各教室や体育施設の円滑な運用に向けて、総務部、学務部を中心に、調整方法を工夫し、組織的・計画的な取組を進めた。 高校全日制・定時制・附属中学校・南部地域教育センター合同の全館防災訓練を実施し、災害時における生徒の防災意識を高めた。 非常時に備えて校内の備品等の整備を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設管理室と連携し、生徒の安全を最優先した施設点検及び管理に努める。 高校全日制・定時制、附属中学校が、授業、行事、部活動で、限られた学校施設を効率的に使えるよう、各校務分掌や関係機関が校務を越えて連携を深め、連絡調整に努める。 生徒の健康上の安全を優先し、施設内の消毒の徹底など、前年度の取組を生かす。
6	<p>学校事務</p> <ul style="list-style-type: none"> 公金の適正な管理と計画的・効率的な予算執行を行う。 学校全体を見据え、管理職、教職員等との連携と情報の共有化を図りながら、学校財務の効率的な運用を図る。 校舎及び体育施設における備品等の適正管理を行う。 教職員の福利厚生等に関する事務の適正処理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌や教科代表による予算委員会を組織して計画的な予算編成に取組み、管理職と予算担当で実務的な取組みを行った。 夏休みを中心に、全職員で校舎内及び体育館の備品の管理状況の調査を実施した。 学校事務については適正な事務処理が執行された。 	<ul style="list-style-type: none"> 公金の適正な管理と計画的・効率的な予算執行を行うため、学校全体を見据え、管理職、教職員等との連携と情報の共有化を図りながら、学校財務の効率的な運用を図る。 校舎及び体育施設における備品等の適正管理を行う。 教職員の福利厚生等に関する事務の適正処理を行う。 学校徴収金の適切な管理運用のための校内の相互チェックなど、管理体制を強化する。
7	<p>学校組織</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科等の公開授業や研究会などを通して、指導力を高める授業改善の取組を推進する。 各教科等において、生徒の思考力・判断力・表現力を育てるために有効な手立てとなる、言語活動の充実を図る取組を進める。 各教科・科目の特性に応じた適切な学習形態のあり方を研究・実践する。 校務分掌としての業務分掌の確立や伝達・継承の円滑化を図る取組を進める。 校内コミュニケーションを通じた相互協力や連携に基づく協働体制の確立を図る。 計画的・組織的に計画的に継続的な教育活動を展開し、円滑な校務運営にあつたとともに、各学年、各分掌との連携・協働を通じて、教育効果の向上と教育条件の整備に努める。 学校情報を積極的に発信する開かれた学校づくりを推進し、学校全体の教育力を高める。 生徒、保護者、地域から信頼される学校となるよう、教職員の資質向上を図り、生徒が生き生きと学べる教育を推進する。 教育公務員としてその職責の重さを自覚し、言動が生徒の範となるように、不断の自己研鑽及び研修に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初、新型コロナウイルス感染症拡大下の教育活動の展開を目指し、ICT活用に際する校内組織を立ち上げ、オンライン授業の実施、オンライン職員会議を実施するなど、生徒の学びの継続を図るための組織運営に努めた。 定期的に開催する校務運営会議を通して、各学年、各分掌、専門学科等の取組みや動向を確認、精査することで、円滑な校務運営に努めた。 校務支援ソフトClassiの連携機能を活用し、校務に関する情報伝達を効率化することで、朝の職員打ち合わせの体制を省力化した。 学年・保護室発行の便り、PTA・学校による発行物などを、Classiやホームページを活用することで、新型コロナウイルス感染症拡大下の生徒、保護者に必要とされる情報の発信を積極的に行った。 校内施設の不具合等を整理し、適切な整備補修が行われるよう、教育委員会の関係団体と連携し、迅速な対応を図った。 教育公務員として日常からの適切な言動を不断に再確認しながら、外部の事例等に基づき必要な研修を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 市立高等学校改革推進計画第2次計画の推進に向け、専門学科の生徒及び中高一貫教育の生徒の学習ニーズと進路希望を的確にとらえ各校務分掌が課題改善に向けた、迅速かつ計画的・継続的な学校改革を推進する。 教員のICT活用をさらに推進し、校務全体の効率的な業務運営により、働き方改革を目指す。 コロナ禍の中にあつても、地域、保護者から信頼される学校づくりを、ICTを活用した授業公開を行なうなど、情報発信に努め、開かれた学校づくりを一層推進する。

学校関係者の評価	今年度のまとめ	次年度へ向けて
<ul style="list-style-type: none"> 休業期間中のオンライン授業など学習面でとても充実しており、入学させて良かった。 4月当初からオンライン授業を実施してほしいと思った。 熱心な進路指導に感謝しています。 お知らせのオンライン配信により、子どもとの距離が近く感じられるようになった。 学校に出向く機会が減り、学校生活の様子が見えなくなった。 附属中学校からの学習の流れをスムーズにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けて、教科教室型の学校生活を見直し、施設の使用後の消毒を徹底するなど、職員・生徒の安全を最優先した取組に努めた。同時に、臨時休業期間においても生徒の心のケアや学力の保障のため、オンラインホームルームやオンライン授業を行った。次年度も、生徒の安全や心のケア、学力の保障などに向けた取組を継続、推進していく。 校内におけるICTの活用をさらに進め、非常事態にも対応できる強い学校体制をめざすとともに、職員の業務や生徒の学習の効率化を図る。 普通科(総合的な学習の時間)や、専門学科「課題研究」等、生徒の主体性や協働性、表現力を伸ばすための学習活動を発展させる。 学校教育目標の達成、具現化を図り、生徒が自己肯定感をもてる教育活動をより一層推進していく。 	